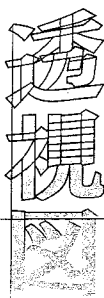


橋の老朽化

点検・補修中小の技生かせ



道路や鉄道にかかる「橋」は生活に欠かせない。1964年の東京五輪や70年の大阪万博のころに建設されたものも多く、老朽化が進む。これから増えるのが、点検や補修

経済部 大宮司聡

などの保守作業だ。そこに目をつけた関西の中小企業と大学などが連携し、作業を効率化する機器を開発している。取り組んでいるのは「東大阪橋梁維持管理研究会」。ボルトや機械といった中小メーカー約20社と、関西大や近畿大、南海電鉄の子会社などが参加し、2014年1月に発足した。保守作業は高い場所に登ったり、橋の下に潜り込んだりして、傷みやキズなどを確認。危険な部分は、補修していく。人手と時間がかか

るのが課題だ。「小回りの利く中小企業なら、問題を解決するための道具やサービスが生み出せるのではないか」(坂野昌弘会長・関西大教授)と検討を始めた。これまでに二つの試作ができた。一つは、繰り返し力がかかることによって生じる「疲労亀裂」などの補強に使う「ワンサイドボルト」。ナットを使わずに、補強用の鋼板を橋の下側から取りつけることができる。道路を通行止めにしなくても工事が可能だ。もう一つは「多機能掃除機」。吸い口を工夫し、ゴミや砂などを手軽に取りのぞいて作業をしやすくする。

◆「透視図」は、大阪本社経済部の記者が取材で感じたことをつづったコラムです。原則、毎週金曜日に掲載します。